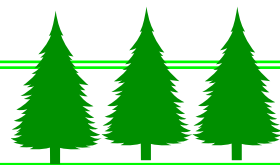




みつぎ便り



第226号 7月号 令和7年7月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ブタナ

六月七日、花壇に夏々秋の花の苗植えをしました。それらに負けずに公園には野草の花も咲いています。高速道路側の道を歩いていくと、桜の下空き地に野草が生え、タンポポも綿毛を付けています。トイレ脇の入り口近くにある掲示板の下にはキキョウソウが群生しています。つつじの下にロゼット状に広がったタンポポに似た、根生葉があります。触るとふさふさと毛が生えているのがわかります。これがブタナでヨーロッパ原産の帰化植物です。タ

ンポポより小ぶりですが、それに似た黄色い花が六、七個あります。

くたつと細い茎が道の方へ倒れていて、その茎は途中で二、三回枝分かれして、その先に先ほどの花が咲いているのです。つつじがなければシャキッと立っていたかもしれない。茎をよく見ると、ちょこつと小さな葉がついています。

豚葉は、フランスの俗名「豚のサラダ」からつけられたそうです。その後、公園の除草作業があったように、今はキキョウソウもブタナも跡形もありません。一株だけあったブタナだけに、冠毛^{かんもう}ができるまで観察したかったなあと、少し残念な気持ちになりました。(敦)

アカメガシワ

東北以南の日本全土に生息するトウダイグサ科の樹木で、主に野山に生えています。コンクリートの裂け目や線路際、海岸線などにも生えてしまうタフな性質で、陽の当たる場所であれば身近に生息しています。見次公園ではバス通り沿いの北東側の入口の茂みに生えています。



名前の由来は、まるでポインセチアのようにも見える赤い新芽と大きな葉があることで。かつてはご飯を盛ったり包んだりしたので、五葉葉^{ごさいいば}などと呼ばれることもあります。柏の葉と同じような使い方をすることから、アカメガシワという名前が付いたようです。

また手工芸好きとして興味を持つのは皮や幹。樹皮を削って籠を編んだり、繊維を取って紐にしたり布を織ることもできます。種と葉は染料にもなるようです。幹は柔らかいので、下駄を作ったり、無臭なのでスプーンなどカトラリーの材料としても適しています。(朋)